

# 訂正版

厚生労働科学研究費補助金  
厚生労働科学特別研究事業

新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究  
(H18-特別-指定-035)

平成18年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 俣 木 志 朗

平成19 (2007) 年 3 月

# 目 次

## I. 総括研究報告

新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究	1
------------------------	---

俣木 志朗

## II. 分担研究報告

1. 研修内容・研修効果に関する調査研究	4
----------------------	---

新田 浩

2. 研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究	53
--------------------------	----

秋山 仁志

3. 研修歯科医の分布等に関する研究	69
--------------------	----

平田 創一郎

4. 歯科大学・歯学部附属病院が所在しない府県での 臨床研修施設及び研修歯科医に対する聞き取り調査	80
--	----

俣木 志朗

平田 創一郎

秋山 仁志

新田 浩

総括研究報告書

新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究

主任研究者 俣木志朗（東京医科歯科大学 教授）

研究要旨：平成 18 年度に必修化された新歯科医師臨床研修制度の修了時期にあたり、今後の本制度の運用、改善に向けた基礎的資料を得るために、臨床研修歯科医、単独型・管理型臨床研修施設、協力型研修施設および臨床研修プログラムを対象にして調査研究を行った。調査項目は、研修内容・研修効果、研修歯科医のメンタルヘルス、研修歯科医の分布、研修歯科医の分布状況、中断・休止・再開事例の検討および歯科大学・歯学部附属病院のない府県における臨床研修施設および研修歯科医に対する聞き取り調査である。その結果、新制度の歯科医師の資質向上への貢献度について、概ね 8 割以上から肯定的評価の回答を得た。一方、研修歯科医の健康問題が起きるリスクはほぼ標準的な全国レベルであり、研修歯科医のストレスは歯科大学病院（単独型）では少なく、一般病院歯科（単独型）で高い傾向を示した。また、研修歯科医の 4 割以上が「抑うつ状態」である可能性が示された。歯科医師臨床研修の実施率は 99.0% と高率を示したが、研修歯科医の都道府県ごとの分布には偏りが認められ、歯科大学・大学歯学部がある都道府県で多い傾向があった。聞き取り調査では、臨床研修の実施内容については、多少の問題点はあるものの、研修歯科医、指導歯科医の双方から概ね充実しているとの回答を得た。一方、研修内容、評価方法、待遇面、制度、補助金、地理的要因に関して多くの問題点が指摘され、今後の本制度の改善に資する貴重な情報を収集することができた。

分担研究者

新田 浩（東京医科歯科大学 助教授）  
秋山 仁志（日本歯科大学附属病院 助教授）  
平田 創一郎（東京歯科大学 講師）

研究協力者

田中 義弘（神戸中央市民病院 部長）  
木村 博人（弘前大学医学部 教授）  
宮武 光吉（歯科医療研修振興財団 専務理事）  
江里口 彰（社団法人日本歯科医師会 常務理事）  
吉本 達哉（歯科医師臨床研修マッチング協議会）

平成 18 年 4 月 1 日より必修化されることとなった。

今般、新歯科医師臨床研修制度における第一期生の修了時期にあたり、新制度の現況をさまざまな側面から調査し、新制度の有効性、効率性を評価するためには、臨床研修を受けている者の状況について緊急に調査することが必要である。

一方、歯科医師の需給に関する観点からも、歯科医師数適正化のための施策のひとつとして臨床研修の必修化が、併せて進められるべき施策として歯科診療所の地域偏在の是正が挙げられている。したがって、新規参入歯科医師である研修歯科医の動向がどのように変化したかを把握することは歯科医師の地域偏在及び需給を検討する上で重要と考えられる。本研究は上記の目的を達成するために行われたものである。

A. 研究目的

わが国の歯科医師臨床研修制度は、昭和 62 年度に委託事業として開始され、平成 8 年度からは努力義務として実施されてきた。平成 12 年 12 月 6 日、法律 141 号の医療法等の一部を改正する法律により、努力義務であった歯科医師臨床研修が、

B. 研究方法

1. 調査対象（詳細は各分担研究者報告を参照）

- ・臨床研修歯科医
- ・単独型・管理型臨床研修施設、
- ・協力型臨床研修施設。
- ・平成 18 年度に新歯科医師臨床研修制度の研修歯科医の募集を行ったすべての研修プログラム
- ・研修プログラム責任者、研修実施責任者、指導歯科医

## 2. 調査期間と方法

本研究のアンケート調査は、厚生労働省が運営する歯科医師臨床研修プログラム検索サイト D-REIS からリンクを張った「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」のホームページ上で回答ができるように整備した。

### (倫理面への配慮)

ログイン時に部外者の侵入を防止するために、ログイン ID、パスワードを必要としたが、アンケートへの回答については研修歯科医、研修施設の自由意志で行い、強制力がないものとした。さらに回答者に不利益をもたらさないように、個人、施設の識別を不能とし、プライバシーの保護に関しては十分に配慮した。調査結果は統計値または匿名性を確保して公表することとし、資料の取り扱いについては十分な注意を払った。

なお、本研究は東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を得て実施したものである。

## C. 研究結果

1. 「新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究」では、研修歯科医 694 名、管理型単独型研修施設 92 施設、協力型研修施設数 309 施設から回答を得た。その結果、新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度については、研修歯科医の結果では、貢献した (39.4%)、少しは貢献した (41.6%) との回答を得た。同様に管理型・単独型研修施設ではそれぞれ 43.0%、44.1%、協力型研修施設で 38.4%、45.5%であった。

2. 「研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究」では、回答者数は 638 名であり、平成 18 年度に臨床研修を実施している全研修歯科医の 24.1%から回答を得た。研修歯科医全体でみた場合、健康リスクは 102.83 であり、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団と比較してほとんど変わらない傾向があることが認められた。また、歯科大学病院 (単独型) での臨床研修は研修歯科医のストレスが少なく、一般病院歯科 (単独型) では研修歯科医のストレスが高くなる傾向があることが認められた。また、研修歯科医の 4 割以上が「抑うつ状態」である可能性があることが認められた。

3. 研修歯科医の全国的な在籍分布状況について、すべての研修プログラムを対象に調査を行った結果、研修歯科医の総数は 2,645 名であった。月平均の都道府県ごとの研修歯科医数は、最大が東京都で 432.8 名、最小が高知県の 2.5 名であった。平成 19 年 1 月現在で休止例は 12 例、中断例は 16 例、再開例は 4 例であった。臨床研修の実施率は 99.0% と高い率を示したが、研修歯科医の都道府県ごとの在籍状況には偏りがみられ、歯科大学・歯学部がある都道府県で多い傾向がうかがわれた。
4. 歯科大学・歯学部附属病院が所在しない府県での臨床研修施設及び研修歯科医に対する聞き取り調査の結果、臨床研修の実施内容については、充実していることが明らかとなった。一方、指導側からは臨床研修の期間、歯科大学・歯学部から遠方である、あるいは地方であるといった場所の問題、補助金についての意見が多かった。

## D. 考察

1. 「新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究」の結果、研修内容、評価方法、待遇面、制度上の多くの問題点も抽出され、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を得ることができた。本アンケート

トは来年度以降も同様な調査を継続して、行う必要があるが、調査期間の延長と事前のアンケート調査の周知をすることにより、今年度より、高い回収率が得られるものと考えられる。

2. 研修歯科医は、健康問題にリスクを抱える傾向があることが推察された。医療現場にとって、適度なストレスがよりよい歯科医師臨床研修を生み出していることも事実であるが、研修歯科医がストレス反応として、抑うつ状態、燃え尽き状態に陥ることがないように配慮する必要がある。
3. 研修歯科医の受け入れキャパシティはおおむね充足されていると考えられるが地域格差が大きいことが明らかとなった。また、都道府県をまたいだ臨床研修施設群方式が研修歯科医の地域偏在の是正の一助となっていることが示されたが、歯科医師の地域偏在の解消のためには現在、協力型臨床研修施設の少ない県においてさらなる臨床研修施設数の拡充が必要と考えられる。
4. いずれの研修施設も、研修歯科医に対する評価に困っていると感じられた。少なくとも管理型施設は群内の協力型施設の指導歯科医に対し、評価の方法や項目などについて、研修などにより周知を図る必要があると考えられる。一方、単独型施設が研修修了の判定に困難を感じているという意見はみられなかった。これは今回対象とした単独型施設の研修歯科医が少数数であり、きめ細かい指導が実施されている結果とも考えられる。

#### E. 結論

1. 新制度は歯科医としての資質の向上にある程度貢献することが明らかとなった。
2. 新歯科医師として、また新社会人としての一歩を踏み出す研修歯科医が、精神的にも身体的にも安心して研修に専念できる環境を提供することは、国民へ提供する歯科医療にとって非常に大切であるといえる。
3. 歯科医師臨床研修の実施率は99.0%、充足率(研修歯科医数/募集総数)は69.8%であり、

研修歯科医の受け入れキャパシティはおおむね充足されているとみられた。

4. 歯科大学・歯学部附属病院が所在しない府県に所在する医科大学・医学部附属病院、病院歯科、歯科診療所での臨床研修の実施状況として、臨床研修の実施内容については充実していることが明らかとなった。一方、問題点として指導側からは臨床研修の期間、歯科大学・歯学部から遠方である、あるいは地方であるといった場所の問題、補助金についての意見が挙げられた。研修歯科医側からは大学から離れるため、情報伝達が悪いという問題点が挙げられた。

#### F. 研究発表

本研究の要旨を以下のとおり発表する予定である。

1. 学会発表：第26回日本歯科医学教育学会総会・学術大会にてシンポジウム「新歯科医師臨床研修1年終了後の検証」(於：岐阜)平成19年7月7日
2. 論文発表：日本歯科医学教育学会雑誌 第23巻、第3号、平成19年12月20日(予定)

#### G. 知的財産権の出願・登録状況 なし

新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究

分担研究者 新田 浩（東京医科歯科大学助教授）

研究要旨：新歯科医師臨床研修制度に関する初年度の研修内容・研修効果、新制度全般に関するアンケート調査を研修歯科医、単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設を対象にウェブ上で行った。研修歯科医 694 名、単独型・管理型臨床研修施設 92 施設、協力型臨床研修施設数 309 施設から回答を得た。その結果、新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度に関しては、研修歯科医の結果では、貢献した（39.4%）、少しは貢献した（41.6%）との回答を得た。同様に管理型・単独型臨床研修施設ではそれぞれ 43.0%、44.1%、協力型臨床研修施設で 38.4%、45.5%であった。新制度は歯科医としての資質の向上にある程度貢献することが明らかとなった。また、本研究により、研修内容、評価方法、待遇面、制度上の多くの問題点も抽出され、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を得ることができた。

A. 研究目的

歯科医師臨床研修制度は平成 8 年度から努力義務として実施されてきた。歯科臨床研修方式には、全研修期間を一つの臨床研修施設（単独型臨床研修施設）で研修する単独型方式と管理型臨床研修施設と協力型臨床研修施設で研修する群方式とに分類され、それぞれの方式で臨床研修プログラムが改善されてきている。平成 18 年度からは、歯科医師臨床研修制度は努力義務から必修となった新歯科医師臨床研修制度が実施され、初年度が終わろうとしている。本研究では新歯科医師臨床研修制度の初年度における研修内容・研修効果について調査・分析し、新制度の有効性を評価するとともに、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を収集する。

B. 研究方法

1. 対象

平成 18 年度研修歯科医、および単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設

2. 調査期間とアンケート方法

厚生労働省が運営する歯科医師臨床研修プログラム検索サイト D-REIS (<http://www.d-reis.org>)

に登録された平成18年度の歯科医師臨床研修施設の施設長宛に、今回の「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」でのアンケート調査協力の依頼状を送付した。単独型および管理型臨床研修施設長には、各施設の研修歯科医に対して、アンケート調査協力の依頼状を送付した。調査期間は、平成19年2月22日から平成19年3月7日までとした。本研究のアンケート調査は、D-REISからリンクを張った「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」のホームページ (<http://www.drmp.jp/kenkyuhan>) 上で回答ができるように整備した。アンケートに回答する研修歯科医は、本研究班ホームページにアクセス後、アンケートリスト中の「研修歯科医の方」をクリックし、所属の臨床研修施設にあらかじめ配布したログインID、パスワードを入力の上、研修歯科医向けアンケートのページへと進む。研修歯科医向けアンケートページ中の「研修内容・研修効果に関する調査」の「アンケート開始」をクリックし、設問に回答する。すべての回答の終了後、最後に送信ボタンを押し、確認のページに進み、確認のページの最下部の送信ボタンを押して終了とする。

単独型・管理型臨床研修施設あるいは協力型臨床研修施設は研修歯科医と同様に、本研究班ホー

ムページにアクセスし、アンケートリスト中の「単独型・管理型臨床研修施設の方」あるいは「協力型臨床研修施設の方」をクリックし、臨床研修施設にあらかじめ配布したログインID、パスワードを入力の上、「研修内容・研修効果に関する調査」の「アンケート開始」をクリックし、設問に回答する。

ログイン時に部外者の侵入を防止するために、ログインID、パスワードを必要としたが、アンケートに対する回答に関しては、研修歯科医、臨床研修施設の自由意志で行い、強制力がないものとした。さらに回答者に不利益をもたらさないように、個人、施設の識別を不可能とし、プライバシーの保護に関しては十分に配慮した。

### 3. 質問項目

研修歯科医向けの「研修歯科医の研修の効果に関するアンケート」では新歯科医師臨床研修に関する研修内容・研修効果、新制度全般に関する選択式および自由記入式の30の質問項目を設定した。また、新歯科医師臨床研修の到達目標である基本習熟コース、基本習得コースそれぞれの項目の到達度について回答を求めた。さらに指導歯科医の指導状況に対する評価項目を設定した。質問項目の詳細については別添資料1を参照のこと。

単独型・管理型臨床研修施設向けの「臨床研修施設（単独型・管理型）の研修の効果に関するアンケート」では、新歯科医師臨床研修に関する研修内容・研修効果、新制度全般に関する選択式および自由記入式の23の質問項目を設定した。また、新歯科医師臨床研修の到達目標である基本習熟コース、基本習得コースそれぞれの項目の重要度について回答を求めた。質問項目の詳細については別添資料2を参照のこと。

協力型臨床研修施設向けの「協力型臨床研修施設向けの研修の効果に関するアンケート」では、新歯科医師臨床研修に関する研修内容・研修効果、新制度全般に関する選択式および自由記入式の20の質問項目を設定した。また、新歯科医師臨床研修の到達目標である基本習熟コース、基本習得コースそれぞれの項目の重要度について回答を求めた。質問項目の詳細については別添資料3を参

照のこと。

（倫理面への配慮）

本研究における調査においては、アンケートの回答には事前に送付したIDとパスワードを必要とし、集計は個人および臨床研修施設が同定できない形で行った。調査結果は統計値または匿名性を確保して公表することとし、資料の取扱については十分な注意を払った。

## C. 研究結果

### 1. 研修歯科医向けアンケート

研修歯科医694名から回答を得た。「研修プログラムの研修期間」は「1年間」95.4%、「2年間」4.6%であった。「研修方式」は「単独型」40.0%、「群方式」60.0%であった。「臨床研修施設」は「公私立大学附属病院」63.3%、「歯学部のある国立大学附属病院」22.2%、「歯学部のない国立大学病院」5.2%、「病院歯科口腔外科」5.0%、「その他」4.3%であった。

「すべての研修内容を100%にしたときの、内訳」は、「座学」9%、「実習」11%、「見学」17%、「アシスト」29%、「自験」32%、「その他」2%であった。

「自験患者の延べ数」は単独型及び管理型臨床研修施設での研修で、「0名」5.5%、「1-20名」56.7%、「21-50名」17.4%、「51名以上」14.2%であった。協力型臨床研修施設での研修では、「0名」2.3%、「1-20名」18.0%、「21-50名」12.8%、「51名以上」26.9%、「無回答」40.0%であった。

「評価方法」として、「研修歯科医手帳」、「ポートフォリオ」が50%以上で用いられ、ついで、「症例検討会における発表」であった。「DEBUT」は22%であった。「評価の適性度」に関しては、「満足している」43.6%、「不満である」15.0%、「どちらとも言えない」41.4%であった。

「適切な研修期間」は「1年」70.6%、「2年」20.6%、「その他」8.8%であった。

「研修プログラムの内容の満足度」は、「満足している」44.6%、「不満である」21.9%、「どちらとも言えない」33.5%であった。「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度」に関しては、「貢献した」39.4%、「少しは貢献した」41.6%、「余り貢献

していない」12.9%、「貢献していない」6.0%であった。

「新歯科医師臨床研修の到達目標についての到達度」に関しては、基本習熟コース「(1)医療面接」10項目の「到達している」と「ほぼ到達している」の割合の和(以下、達成度という)の平均は86.9%で、全ての項目で80%を超えていた。「(2)総合診療計画」の11項目の平均達成度は81.3%で、「g. 一口腔単位の治療計画を作成する」が71.7%で最も低かった。「(3)予防・治療基本技術」の6項目の平均達成度は83.2%で、「c. 医療記録を適切に作成する」が79.2%で最も低かった。「(4)応急処置」の3項目の平均は69.8%で、「b. 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する」が59.2%で最も低かった。「(5)高頻度治療」平均76.7%で、「e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する」が64.1%で最も低かった。「(6)医療管理・地域医療」の7項目の平均は74.1%で、「c. 地域医療に参画する」が61.3%で最も低く、ついで「b-2. 歯科衛生士等に適切に指示する」が66.7%で低かった。

基本習得コース「(1)救急処置」の6項目の平均達成度は、61.8%で、「f. 二次救命処置の対処法を説明する」が50.7%で最も低かった。「(2)医療安全・感染予防」の9項目の平均達成度は78.3%で、「c. 医療過誤について説明する」が73.8%で最も低かった。「(3)医療評価管理」の2項目の平均達成度は、80.1%だった。「(4)予防・治療技術」の6項目の平均達成度は、74.1%で、「c. POSを説明する」が70.3%で最も低かった。「(5)医療管理」の8項目の平均は77.0%で、「a. 歯科医療機関の経営管理を説明する」が54.5%で最も低かった。「(6)地域医療」の4項目の平均は、63.5%で、「c. 歯科訪問診療を体験する」が59.4%で最も低かった。

「指導歯科医の指導状況に対する評価」8項目の「大変良い」と「良い」の割合の和の平均は、79.4%で「d. 研修歯科医を取り巻く状況への配慮」が71.2%で最も低かった。

自由記入式項目「単独型・管理型施設に望むこと」に関しては、①指導医の資質の向上と増員、②給与の増額と交通費の支給、③患者数増加、④プログラムの充実等の意見が多かった。

「協力型臨床研修施設に望むこと」に関しては①指導医のレベルアップ、②自験例の増加、③施設による格差の是正、④研修内容の充実などの意見が多かった。

「国に望むこと」に関しては、①給与の増額と増額が出来ない場合にはアルバイトの許容、②保険点数の増点、③協力型施設の増加、④本制度の是非についての意見が多かった。

他の質問項目を含め、それぞれの結果の詳細については、別添資料4、5を参照のこと。

## 2. 単独型・管理型臨床研修施設向けアンケート

単独型・管理型臨床研修施設数92施設から回答を得た。「すべての研修内容を100%にしたときの、内訳」は、単独型臨床研修施設で「座学」10%、「実習」17%、「見学」15%、「アシスト」21%、「自験」35%、「その他」2%であった。管理型臨床研修施設で「座学」9%、「実習」13%、「見学」16%、「アシスト」22%、「自験」40%、「その他」0%であった。

「評価方法」として、「症例検討会における発表」、「研修歯科医手帳」、「レポート」、「口頭試問」、「観察記録」であった。「ポートフォリオ」を用いている施設は19.4%であった。

「適切な研修期間」は「1年」35.5%、「2年」61.3%であった。

「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度」に関しては、「貢献した」43.0%、「少しは貢献した」44.1%、「余り貢献していない」9.7%、「貢献していない」3.2%であった。

「新歯科医師臨床研修の到達目標についての重要度」に関しては、基本習熟コース「(1)医療面接」10項目の「重要視している」の割合の平均は74.7%で、「a-1. 患者の訴えを傾聴する」が92.5%で最も高く、「h. 患者教育と治療への動機付けを行う」が51.6%と最も低かった。「(2)総合診療計画」の11項目の「重要視している」の割合の平均は69.83%で、「b. 基本的な診察・検査を実践する」が82.8%で最も高く、「g. 一口腔単位の治療計画を作成する」が57.0%で最も低かった。「(3)予防・治療基本技術」の6項目の「重要視している」の割合の平均は71.0%で、「d. 個人情報の取り扱いに配慮する」が81.7%で「a. 基本的な予防法の手

技を実施する」が 54.8%で最も低かった。「(4)応急処置」の3項目の「重要視している」の割合の平均は 64.1%で、「c. 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する」が 52.7%で最も低かった。「(5)高頻度治療」の5項目の「重要視している」の割合の平均は 67.3%で、「d. 抜歯の基本的な処置を実践する」が 81.7%で最も高く、「e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する」が 52.7%で最も低かった。「(6)医療管理・地域医療」の7項目の「重要視している」の割合の平均は 55.5%で、「b. チーム医療を実践する」が 68.8%で最も高く、「c. 地域医療に参画する」が 21.9%で最も低く、ついで「b-2. 歯科衛生士等に適切に指示する」が 35.5%で低かった。

基本習得コース「(1)救急処置」の6項目の「重要視している」の割合の平均は、71.0%で、「a. バイタルサインを観察し、異常を評価する」が 82.8%と最も高く、「f. 二次救命処置の対処法を説明する」が 43.0%で最も低かった。「(2)医療安全・感染予防」の9項目の「重要視している」の割合の平均は 74.0%で、「e-1. 常に感染防止に配慮する」が 81.7%で最も高く、「c. 医療過誤について説明する」が 66.7%で最も低かった。「(3)医療評価管理」の2項目の「重要視している」の割合の平均は、43.0%で低い値だった。「(4)予防・治療技術」の6項目の「重要視している」の割合の平均は、49.5%で、平均して低い値だった。「(5)医療管理」の8項目の平均は 53.4%で、「d-2. 感染性廃棄物を安全に取り扱う」が 73.1%で最も高く、「a. 歯科医療機関の経営管理を説明する」が 16.1%で最も低かった。「(6)地域医療」の4項目の「重要視している」の割合の平均は、31.2%で、「医療連携を説明する」が 49.5%で、「c. 歯科訪問診療を体験する」が 21.5%で最も低かった。

自由記入式項目「研修歯科医に望むこと」に関しては、①積極性、②医療人としてのマナー等、研修歯科医としての態度に関する意見が多かった。

「協力型施設に望むこと」に関しては、研修歯科医の診療機会の増加が多かった。

「国に望むこと」は①研修期間の延長、②補助金の増額、③事務手続きの簡素化に関する意見が

多かった。

他の質問項目を含め、それぞれの結果の詳細については、別添資料6、7を参照のこと。

### 3. 協力型臨床研修施設向けアンケート

協力型臨床研修施設数 309 施設から回答を得た。「研修歯科医受け入れ期間」は、「4ヶ月」が最も多く、ついで「6ヶ月」であった。

「すべての研修内容を 100%にしたときの、内訳」は、「座学」10%、「実習」24%、「見学」21%、「アシスト」25%、「自験」18%、「その他」1%であった。

「評価方法」として、「口頭試問」、「研修歯科医手帳」が 50%以上で用いられ、ついで、「観察記録」、「レポート」、「症例検討会における発表」、「ポートフォリオ」の順であった。

「適切な研修期間」は「1年」59.0%、「2年」38.4%であった。「適切な協力型臨床研修施設での研修期間」は、「3ヶ月」9.0%、「6ヶ月」45.8%、「1年」35.8%、「その他」9.4%であった。

「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献」に関しては、「貢献した」38.4%、「少しは貢献した」45.5%、「余り貢献していない」12.6%、「貢献していない」3.5%であった。

「新歯科医師臨床研修の到達目標についての重要度」に関しては、基本習熟コース「(1)医療面接」の10項目の「重要視している」の割合の平均は 65.97%で、「a-1. 患者の訴えを傾聴する」が 84.2%で最も高く、「d. 患者・家族に必要な情報を十分に提供する」が 57.1%と最も低かった。「(2)総合診療計画」の11項目の「重要視している」の割合の平均は 64.5%で、「b. 基本的な診察・検査を実践する」が 74.8%で最も高く、「a-1. 必要な医療情報を列挙する」が 50.3%で最も低かった。「(3)予防・治療基本技術」の6項目の「重要視している」の割合の平均は 58.6%で、「b. 基本的な治療法の手技を実施する」が 67.1%で最も高く、「d. 医療記録を適切に管理する」が 50.3%で最も低かった。「(4)応急処置」の3項目の「重要視している」の割合の平均は 58.4%で、「b. 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する」が 44.2%で最も低かった。「(5)高頻度治療」の5項目

の「重要視している」の割合の平均は64.5%で、「a. 齲蝕の基本的な治療を実践する」が75.8%で最も高く、「e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する」が47.4%で最も低かった。「(6)医療管理・地域医療」の7項目の「重要視している」の割合の平均は56.2%で、「b-1. 他の歯科医師・歯科衛生士等と常に情報交換する」が63.9%で最も高く、「c. 地域医療に参画する」が31.9%で最も低く、ついで「b-2. 歯科衛生士等に適切に指示する」が48.4%で低かった。

基本習得コース「(1)救急処置」の6項目の「重要視している」の割合の平均は、48.5%で、「c. 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する」が60.3%と最も高く、「f. 二次救命処置の対処法を説明する」が31.3%で最も低かった。「(2)医療安全・感染予防」の9項目の「重要視している」の割合の平均は58.5%で、「e-1. 常に感染防止に配慮する」が71.9%で最も高く、「b-2. ヒヤリハットについて説明する」、「c. 医療過誤について説明する」がともに49.4%で最も低かった。「(3)医療評価管理」の2項目の「重要視している」の割合の平均は、57.0%だった。「(4)予防・治療技術」の6項目の「重要視している」の割合の平均は43.9%で、「a-1. 積極的に情報を集める」が50%で最も高く、「c. POSを説明する」が35.2%で最も低かった。「(5)医療管理」の8項目の「重要視している」の割合の平均は55.5%で、「a. 歯科医療機関の経営管理を説明する」が22.6%で最も低かった。「(6)地域医療」の4項目の「重要視している」の割合の平均は、35.2%で、「医療連携を説明する」が41.3%で、他の3項目は、33%前後であった。

自由記入式項目「研修歯科医に望むこと」に関しては、①研修歯科医としての自覚、②積極性、③患者とのコミュニケーション能力に関する意見が多かった。

「管理型臨床研修施設に望むこと」に関しては、①卒前・初期研修の充実、②研修歯科医とのマッチング、③情報提供、④受け入れ期間と時期に関する意見が多かった。

「国に望むこと」に関しては、①補助金の増額、②医科との格差是正、③本制度の是非、④事務手

続きの簡素化に関する意見が多かった。

他の質問項目を含め、それぞれの結果の詳細については、別添資料8、9を参照のこと。

#### D. 考察

平成18年度から新歯科医師臨床研修制度が実施され、初年度が終わろうとしている。本研究は新歯科医師臨床研修制度の初年度における研修内容・研修効果について調査・分析し、新制度の有効性を評価するとともに、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を収集することを目的とした。

今回のアンケートの期間に関しては、本来、初年度が終了する3月31日以降に行う所であるが、研修が終了すると、研修歯科医がそれぞれの進路に進むため、連絡が取れなくなることが予想されたため、平成19年2月22日から平成19年3月31日までとした。本報告書は3月31日以前で、なおかつ、データー分析に必要な時間がとれる、平成19年2月22日から3月7日までの14日間のデーターを用いた。14日間で研修歯科医694名から回答を得られた。第99回歯科医師国家試験の合格者数は2,673名であることから回収率は26%であった。26%という数値は調査期間が14日間という短い期間であることを鑑みれば、低い回収率とはいえないと考えられる。また、単独型・管理型臨床研修施設92施設、協力型臨床研修施設309施設から回答を得られた。本アンケートは来年度以降も同様な調査を継続して、行う必要があるが、調査期間の延長と事前のアンケート調査の周知をすることにより、今年度より、高い回収率が得られるものと考えられる。

研修歯科医のアンケート結果では、研修方式は単独型40%、群方式60%であった。「臨床研修施設群方式が望ましい」という平成17年7月12日発医道審議会歯科医師分科会歯科医師臨床研修部会意見書で述べられているが、初年度において、すでに単独方式より群方式で研修した研修歯科医が多く、今後さらに、群方式での研修が増加することにより、地域保険・医療の実施、病診連携の理解、診療所における医療安全管理の理解に関する研修が期待できる。

「すべての研修内容を100%にしたときの、各研修内容の割合」に関して、研修歯科医のアンケート結果では、「座学」9%、「実習」11%、「見学」17%、「アシスト」29%、「自験」32%、「その他」2%であり、自験が少ないことは否めなかった。また、「自験患者数」では、単独型臨床研修施設・管理型臨床研修施設での研修に比べ、協力型臨床研修施設での研修の方が多くのように思われた。臨床研修施設のアンケート結果では、各研修内容の割合比率に関しては大差がなかった。

「評価方法」に関しては、研修歯科医のアンケート結果では「研修歯科医手帳」57.1%、「ポートフォリオ」が56.1%で用いられ、ついで、「症例検討会における発表」であった。単独型・管理型では、「症例検討会における発表」64.5%で最も多く、「ポートフォリオ」を用いている施設19.4%であった。協力型臨床研修施設では「口頭試問」が69.0%で最も多く、「ポートフォリオ」は27.4%の順であった。研修歯科医の50%以上が「ポートフォリオ」での評価をされていると考えているが、施設側では、それ以外の評価方法を重用している用である。

「評価の適性度」に関する、研修歯科医のアンケート結果では、「満足している」43.6%、「不満である」15.0%、「どちらとも言えない」41.4%であり、満足しているとは言えなかった。

この理由として、研修歯科医が評価に利用されていると思っている方法と臨床研修施設側が重要視している評価方法と異なっている可能性が示唆された。

「適切な研修期間」に関しては、研修歯科医のアンケート結果では、「1年」70.6%、「2年」20.6%、「その他」8.8%であり、単独型・管理型臨床研修施設のアンケート結果では、「1年」35.5%、「2年」61.3%、協力型臨床研修施設のアンケート結果では、「1年」59.0%、「2年」38.4%であった。研修歯科医は卒直後研修の期間は1年で良いという意見が多いが、これは早く歯科医として独り立ちしたいという気持ち強いこと、あるいは1年間で満足した研修ができたこと、あるいは満足していない場合は、同じ研修を2年継続しても仕方がないと思うことに由来するのかもしれない。一方、単独

型・管理型臨床研修施設では、研修させたい内容が多く、一年間では不十分と考えていることが示唆された。

「新歯科医師臨床研修の到達目標についての到達度」に関しては、基本習熟コース「(1)医療面接」で、平均達成度86.9%、「(2)総合診療計画」で81.3%、「(3)予防・治療基本技術」83.2%、「(4)応急処置」69.8%、「(5)高頻度治療」76.7%であった。「(6)医療管理・地域医療」は74.1%だった。「(4)応急処置」、「(5)高頻度治療」、「(6)医療管理・地域医療」は平均達成度が低かった。これは、研修中に遭遇する機会が少ないことによると考えられる。

基本習得コースでは「(1)救急処置」61.8%、「(2)医療安全・感染予防」78.3%、「(3)医療評価管理」80.1%、「(4)予防・治療技術」74.1%、「(5)医療管理」77.0%で「(6)地域医療」63.5%であり、「(1)救急処置」、「(6)地域医療」の平均達成度が低かった。この理由として、研修中に遭遇する機会が少ないことがあげられる。こういった機会に多く遭遇する協力施設での研修を追加する必要が示唆された。

「臨床研修施設における新歯科医師臨床研修の到達目標の重要度」に関して、単独型・管理型臨床研修施設での「重要視している」の割合は、基本習熟コース「(1)医療面接」で74.7%であり、協力型臨床研修施設で65.9%であった。「(2)総合診療計画」ではそれぞれ、69.8%、64.5%で、同様に「(3)予防・治療基本技術」71.0%、58.6%「(4)応急処置」64.1%、58.4%「(5)高頻度治療」67.3%、64.5%「(6)医療管理・地域医療」55.5%、56.2%であった。基本習得コースでは「(1)救急処置」71.0%、48.5%、「(2)医療安全・感染予防」74.0%、58.5%「(3)医療評価管理」43.0%、57.0%「(4)予防・治療技術」49.5%、43.9%、「(5)医療管理」は53.4%、55.5%「(6)地域医療」31.2%、35.2%であった。

単独型・管理型臨床研修施設と協力型臨床研修施設を比較してみると、基本習熟コースでは、(1)医療面接「(3)予防・治療基本技術」、「(4)応急処置」で単独型・管理型臨床研修施設で、最重要度が高くなっている。このことは、指導歯科医が多いこと、診療時間が比較的長く取れることが考えられる。基本習得コースの「(1)救急処置」、「(2)

医療安全・感染予防」でも、同様に単独型・管理型臨床研修施設で、「重要視している」の割合が高くなっている。これは、単独型・管理型臨床研修施設の方が、さまざまな設備、器材が整備されていて、これらの研修内容をカバーしやすい環境であることに起因するのかもしれない。

一方、基本習得コースの「(3)医療評価管理」では、協力型臨床研修施設の方が、「重要視している」の割合が高くなっている。これは、単独型・管理型臨床研修施設に比べ、患者が地域住民であるので、メンテナンスプログラムを実施しやすい環境であることに因るのかもしれない。

また、基本習得コースの「(6)地域医療」の「重要視している」の割合は、単独型・管理型、協力型臨床研修施設の両者とも、低く、今後は、研修プログラムに協力施設を取り込み、足りない部分の研修を行う必要性が示唆された。

「研修プログラムの内容の満足度」に関しては、研修歯科医のアンケート結果では、「満足している」44.6%、「不満である」21.9%、「どちらとも言えない」33.5%であり、研修プログラムの改善の必要性が示唆された。

「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度」に関しては、研修歯科医、臨床研修施設のアンケート結果に大差はなく、おおよそ、「貢献した」40%、「少しは貢献した」45%、「余り貢献していない」10%、「貢献していない」5%であった。新歯科医師臨床研修制度は、研修歯科医、臨床研修施設の両者に、歯科医師としての資質の向上にある程度の貢献は認められていることが示唆された。

## E. 結論

新歯科医師臨床研修制度の初年度の終了間近に、研修歯科医、単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設を対象に、新臨床研修に関する研修内容・研修効果、新制度全般に関するアンケート調査をウェブ上で行った。その結果、研修歯科医、単独型、管理型、協力型臨床研修施設すべてから、新制度は歯科医としての資質の向上にある程度の貢献があったとの回答が得られた。

また、研修内容、評価方法、待遇面、制度上の多くの問題点も抽出され、今後の制度の運用、改

善に向けての基礎資料を得ることができた。

## F. 研究発表

学会発表：第26回日本歯科医学教育学会総会・学術大会にてシンポジウム「新歯科医師臨床研修1年終了後の検証」で「新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究」として発表予定（平成19年7月7日於：岐阜）

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

**研修歯科医の研修の効果に関するアンケート**

研修歯科医向けの研修の効果に関するアンケートです。研修歯科医以外の方は、本研究班のトップページからアンケートを選択しなおしてください。

- Q1 研修プログラムの研修期間(必須)  
 1年  2年
- Q2 研修方式(必須)  
 単独型  群方式
- Q3 臨床研修施設(群方式の場合は管理型臨床研修施設)(必須)  
 公立歯科大学附属病院  
 歯学部のある国立大学附属病院  
 歯学部のない国立大学附属病院  
 病院歯科口腔外科  
 その他

- Q4 群方式の場合、協力型臨床研修施設の雇用形態を回答ください。(必須)  
 在籍型出向  
 完全移籍型

- Q5 Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。  
 Q5-1 (必須)  
 管理型臨床研修施設  ヶ月
- Q5-2 (必須)  
 協力型臨床研修施設  ヶ月

Q6 Q5にて「群方式」と答えた方に質問です。

- Q6-1 (必須)  
 産学  %  位
- Q6-2 (必須)  
 実習  %  位
- Q6-3 (必須)  
 見学  %  位
- Q6-4 (必須)  
 アシスト  %  位
- Q6-5 (必須)  
 自験  %  位
- Q6-6 (必須)  
 その他  %  位

Q6 すべての研修内容を100%として、各研修内容の時間ベース%を記入してください。内容ベースで研修効果が高いものから順に1から番号を記入してください。

- Q7、Q8、Q9は、単独または管理型臨床研修施設での研修の自験例について回答ください。  
 Q7 担当医制である(必須)  
 はい  
 いいえ
- Q8 自験患者延べ数(必須)

Q8-7 Q6-6のその他に1%以上と回答された方は、研修内容を記入してください。

Q9 担当医制である(必須)

Q9 担当医制である(必須)

- はい  
 いいえ

Q10 自験患者延べ数(必須)

- C 0名  
 1~20名  
 21~50名  
 51名以上
- Q9 ケース数(必須)  
 0  1~5  6~10  11以上
- 修復  C  
 歯周治療  C  
 エンド治療  C  
 クラウン・ブリッジ  C  
 パーシヤルデンチャー  C  
 コンプリートデンチャー  C  
 抜歯  C

Q10にて「群方式」と答えた方に質問です。  
 Q10、Q11、Q12は、協力型臨床研修施設での研修の自験例について回答ください。  
 Q10 担当医制である(必須)

- はい  
 いいえ

Q11 自験患者延べ数

- C 0名  
 1~20名  
 21~50名  
 51名以上

Q12 ケース数

- 0  1~5  6~10  11以上
- 修復  C  
 歯周治療  C  
 エンド治療  C  
 クラウン・ブリッジ  C  
 パーシヤルデンチャー  C  
 コンプリートデンチャー  C  
 抜歯  C

Q13 研修記録の方式について(必須)

- 研修歯科医手帳  
 ポートフォリオ  
 DEBUT  
 その他:

Q14 研修施設での評価方法を選択してください。(1個以上必須)

- 研修歯科医手帳  
 ポートフォリオ  
 DEBUT  
 研修記録  
 口頭試問  
 レポート  
 症例検討会における発表  
 その他:

Q15 評価の適正度(必須)

- Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。
- Q19-2 交通費の支給(必須)
  - 有  無
- Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。
- Q19-3 残業手当(必須)
  - 有  無
- Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。
- Q19-4 社会保険の加入(必須)
  - 有  無
- Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。
- Q19-5 労働保険の加入(必須)
  - 有  無
- Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。
- Q19-6 住宅または住宅手当(必須)
  - 有  無

Q20 研修プログラムの内容(必須)

満足している  不満である  どちらとも言えない

内容

Q21 研修プログラムの内容を充実させるために必要なものは何ですか。

Q22 研修プログラムの満足度(必須)

満足している  不満である  どちらとも言えない

満足度

Q23 自分が受けた研修プログラムを後輩に勧めますか。(必須)

勧める  勧めない  どちらとも言えない

Q24 適切な研修期間は(必須)

1年  2年  その他:

Q25 研修修了後の進路について

- Q25-1 施設種別(必須)
  - 大学附属病院(歯)
  - 大学附属病院(医)
  - 病院歯科口腔外科
  - 診療所
  - その他:
- Q25-2 都道府県名 (必須)
  -
- Q25-3 研修修了後の身分(必須)
  - 勤務医
  - 大学院生(臨床)

- 適性度
- 満足している  不満である  どちらとも言えない
- Q16 真換型又は管理型臨床研修施設の設備等(必須)
  - 満足している  不満である  どちらとも言えない
- 図書
- 研修資料・媒体
- インターネット環境
- ロッカー
- 控え室
- 技工室
- セミナー室
- 実習室
- 周囲の環境
- 利便性

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q17 協力型臨床研修施設の設備等(必須)

満足している  不満である  どちらとも言えない

図書

研修資料・媒体

インターネット環境

ロッカー

控え室

技工室

セミナー室

実習室

周囲の環境

利便性

- Q18-1 給与(必須)
  - 円(税込み)
- Q18-2 交通費の支給(必須)
  - 有  無
- Q18-3 残業手当(必須)
  - 有  無
- Q18-4 社会保険の加入(必須)
  - 有  無
- Q18-5 労働保険の加入(必須)
  - 有  無
- Q18-6 住宅または住宅手当(必須)
  - 有  無
  - 円
  - 無
- Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。
- Q19 協力型臨床研修施設での研修歯科医の処遇
- Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。
- Q19-1 給与(必須)
  - 円(税込み)

- 大学院生(基礎)
- 専攻生
- 研修医(後期)
- その他:

Q25-4 それに決めた理由(1欄以上必須)

- 専門性
- さらなる研修
- 施設長(院長)の人情
- 診療システム
- 通勤の利便性
- その他:

Q25-5 連絡に関する情報収集の手段(1欄以上必須)

- 母校
- 単独型、管理型臨床研修施設の求人案内
- 協力型臨床研修施設の紹介
- 知人の紹介
- 歯科雑誌の募集広告
- 歯科業界就職輪旋会社
- その他:

Q26 将来開業した場合に協力型臨床研修施設として研修歯科医を受け入れられますか?(必須)

- 受け入れる
- 受け入れない
- どちらとも言えない

Q27 歯科医師臨床研修は、歯科医としての資質の向上に貢献しましたか。(必須)

貢献した 少し貢献した あまり貢献してい 貢献していない

- C
- C
- C
- C

Q28 単独型又は管理型臨床研修施設に望むこと

[Empty text box for Q28]

Q29 協力型臨床研修施設に望むこと

[Empty text box for Q29]

Q30 国に望むこと

[Empty text box for Q30]

以降は、新歯科医師臨床研修の到達目標について、それぞれの到達度についてお答え下さい。

Q31 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(1)医療面接

到達している ほぼ到達してい どちらかといえ 到達していない

- a. 病歴(主訴、現病歴、既往歴及び家族歴)歴取を的確に行う。
- a-1. 患者の訴えを傾聴

- C
- C
- C
- C

- する。
- a-2. 患者の訴えを順序立てて誘導する。
- b. 病歴を正確に記録する。
- c. 患者の心理・社会的背景に配慮する。
- d. 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。
- e. 患者の自己決定を尊重する。
- f. 患者のプライバシーを守る。
- g. 患者の心身におけるQOL(Quality of Life)に配慮する。
- h. 患者教育と治療への動機付けを行う。

Q32 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(2)総合診療計画

到達している ほぼ到達してい どちらかといえ 到達していない

- a. 適切で十分な医療情報を収集する。
- a-1. 必要な医療情報を列挙する。
- a-2. 医療情報を十分に取集する。
- b. 基本的な診察・検査を実施する。
- c. 基本的な診察・検査の所見を判断する。
- d. 得られた情報から診断する。
- e. 適切と思われる治療法及び別の選択法を提示する。
- e-1. 適切な治療法を選択する。
- e-2. 適切な治療法すべてを患者に提示する。
- f. 十分な説明による患者の自己決定を確認する。
- g. 一口腔単位の治療計画を作成する。

Q33 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(3)予防・治療基本技術

到達している ほぼ到達してい どちらかといえ 到達していない

- a. 基本的な予防法の手技を実施する。
- b. 基本的な治療法の手技を実施する。
- c. 医療記録を適切に作成する。
- d. 医療記録を適切に管理する。
- d-1. 個人情報に配慮する。
- d-2. 医療記録を管理する。

- C
- C
- C
- C
- C
- C

Q34 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(4)応急処置

法を説明する。	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 疼痛に対する基本的な治療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 格闘物、補綴装置等の脱離と破損及び不適当に対する適切な処置を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q35 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(5)高頻度治療

法を説明する。	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 齲蝕の基本的な治療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 歯髄炎患の基本的な治療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 歯周炎患の基本的な治療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 抜歯の基本的な処置を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q36 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(6)医療管理・地域医療

法を説明する。	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 保険診療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
a-1. 保険診療について説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
a-2. 適切な保険診療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. チーム医療を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b-1. 他の歯科医師・歯科衛生士等と常に情報交換する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b-2. 歯科衛生士等に適切に指示する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 地域医療に参画する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q37 2 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(1)救急処置

法を説明する。	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. バイタルサインを観察し、異常を評価する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 服用薬物の歯科診療に関連する副作用を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 一次救命処置を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f. 二次救命処置の対処	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

法を説明する。

Q38 2 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(2)医療安全・感染予防  
 到達している ほぼ到達している どちらかといえば到達していない 到達していない

a. 医療安全対策を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. アクシデント及びインシデントを説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b-1. 医療事故について説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b-2. ヒヤリ/ハットについて説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 医療過誤について説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 院内感染対策(Standard Precautionsを含む)を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 院内感染対策を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e-1. 常に感染防止に配慮する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e-2. 感染防止対策を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q39 2 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(3)経過評価管理

法を説明する。	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. リコーレンシステムの重要性を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 治療の結果を評価する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q40 2 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(4)予防・治療技術

法を説明する。	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 専門的な分野の情報を収集する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
a-1. 積極的に情報を求める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
a-2. 求める情報を検索する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 専門的な分野を体験する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. POS(Problem Oriented System)を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. EBM(Evidence Based Medicine)を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q41 2 歯科医師臨床研修<基本習熟コース>(5)医療管理

法を説明する。	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 歯科医療機関の経営管理を説明する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 常に必要に応じた医療情報の収集を行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 適切な放射線管理を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c-1. 患者、医療従事者等の被曝に配慮する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c-2. 放射線防護を実践する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

d. 医薬物を適切に処理する。  
 d-1. 医薬物を分別する。  
 d-2. 感染性医薬物を安全に取り扱う。

Q42 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (6) 地域医療  
 到達している ほぼ到達している どちらかといえば到達していない 到達していない

a. 地域歯科保健活動を説明する。  
 b. 歯科訪問診療を説明する。  
 c. 歯科訪問診療を体験する。  
 d. 医療連携を説明する。

Q43 指導歯科医の指導状況に対する評価  
 大変良い 良い 悪い 大変悪い 評価不能

a. 基本的な手技、術式の指導  
 b. 考え方の指導(治療計画の立案、治療結果の評価、予後の推測など)  
 c. 研修意欲の高め方(自分の指導に責任を持つ、研修歯科医のやる気を出させる)  
 d. 研修歯科医を取り巻く状況への配慮  
 e. 指導を受けた歯科医の水準(診断、治療の水準)  
 f. 医療安全・感染予防に対する指導  
 g. 患者・家族との接し方に対する指導  
 h. コミュニティスタッフとの連携に関する指導

ご協力ありがとうございました。送付ボタンをクリックしてください。

送信

臨床研修施設(単独型・管理型)の研修の効果に関するアンケート

管理型臨床研修施設または単独型臨床研修施設向けの研修の効果に関するアンケートです。協力型臨床研修施設の方は、本研究班のトップページから協力型臨床研修施設向けのアンケートを選択してください。

Q1 研修施設の種別は(1個以上必須)  
 単独型臨床研修施設  
 管理型臨床研修施設  
 協力型臨床研修施設

Q2 研修プログラム数  
 単独型  プログラム  
 群方式  プログラム(管理型臨床研修施設のみ回答ください。)

Q3 研修期間  
 Q3-1 (必須) 2年  人  
 Q3-2 (必須) 1年  人

Q4 指導歯科医数(必須)  人

Q1にて「管理型臨床研修施設」と答えた方に質問です。  
 Q5 貴施設の指定を受けている協力型臨床研修施設総数(必須)  施設

Q1にて「管理型臨床研修施設」と答えた方に質問です。  
 Q6 協力型臨床研修施設での研修歯科医の雇用形態を回答ください。(必須)  
 在籍型出向  
 完全移籍型

Q7 すべての研修内容を100%として、各研修内容の%を記入してください。複数のプログラムがある場合は、定員が最も大きいプログラムについて回答してください。(必須)

1. 座学  %  
 2. 実習  %  
 3. 見学  %  
 4. アシスト  %  
 5. 自験  %  
 6. その他  %

Q7-1 Q7の他に1%以上回答された方は、研修内容を記入してください。

Q8 貴施設で用いている研修歯科医の評価方法を選択してください。(1個以上必須)

研修歯科医手帳  
 ポートフォリオ  
 観察記録  
 口頭試問  
 レポート  
 症例検討会における発表

その他

Q9 貴施設の研修歯科医指導向上のための取り組み(必須)

院内指導歯科医FD

院内指導歯科医FD以外のFDへの参加

その他

Q10 研修歯科医の処遇について

Q10-1 給与(必須)

Q10-2 交通費の支給(必須)

有  無

Q10-3 残業手当(必須)

有  無

Q10-4 住宅(必須)

有  無

Q10-5 社会保険の加入(必須)

有  無

Q10-6 労働保険の加入(必須)

有  無

Q11にて「単独型臨床研修施設」と答えた方に質問です。

Q11 研修歯科医の選抜について

Q11にて「単独型臨床研修施設」と答えた方に質問です。

Q11-1 貴施設に残る研修歯科医数(必須)

Q11にて「単独型臨床研修施設」と答えた方に質問です。

Q11-2 貴施設に関連した施設に残る研修歯科医数(必須)

Q11にて「管理型臨床研修施設」と答えた方に質問です。

Q12 研修歯科医の進路について

Q11にて「管理型臨床研修施設」と答えた方に質問です。

Q12-1 貴施設に残る研修歯科医数(必須)

Q11にて「管理型臨床研修施設」と答えた方に質問です。

Q12-2 協力型臨床研修施設に残る研修歯科医数(必須)

Q11にて「管理型臨床研修施設」と答えた方に質問です。

Q12-3 その他施設に移る研修歯科医数(必須)

Q13 研修歯科医に対して進路指導を行っていますか？(必須)

はい  いいえ

Q13にて「はい」と答えた方に質問です。

Q14 研修歯科医に対する進路指導の内容についてお答えください。(1欄以上必須)

就職先を斡旋する窓口を設けている

相談を受けた場合に知人を紹介する

面接

その他

Q15 研修歯科医を受け入れて、良かった点について選択してください。(1欄以上必須)

- 医療安全体制の充実。
- 診療の質の向上。
- 研修歯科医を指導することによる指導医の自己研鑽。
- 診療所の活気の向上。
- 来院患者の増加。
- 指導能力の向上。
- 日本の歯科医療向上への貢献。
- その他

Q16 受け入れ後の問題点について、あてはまる項目を全て回答ください。(1欄以上必須)

- 研修歯科医の意欲・態度研修
- 研修歯科医の知識レベル
- 研修歯科医の技術レベル
- 患者との信頼関係
- 指導医との信頼関係
- 他の職員との信頼関係
- 指導に割かれる時間
- 診療所の来院患者数
- 診療所の収益
- 研修歯科医への給与
- 診療所の設備(スペース、インターネット)
- 受け入れ期間
- 協力型臨床研修施設との連携
- 事務手続きの煩雑さ
- その他

Q17 適切な研修期間は(必須)

1年  2年

その他

Q18 来年度の研修歯科医受け入れについて(必須)

今年度より多数

今年度と同数

今年度より少数

受け入れない

単独型プログラムと群方式プログラムの両方がある管理型臨床研修施設の方に質問です。

Q19 研修プログラムの種類と研修効果について

単独型臨床研修施設の方が研修効果が高い

群方式の方が研修効果が高い

どちともいえない

Q20 新歯科医師臨床研修は、歯科医の資質の向上に貢献したと思いますか。(必須)

貢献した  少し貢献した  あまり貢献していない  貢献していない

Q21 研修歯科医に望むこと

[Empty text box for Q21]

Q22 協力型臨床研修施設に望むこと

[Empty text box for Q22]

Q23 園に望むこと

[Empty text box for Q23]

以降は、貴施設新歯科医師臨床研修の到達目標について、それぞれの重要度についてお答えください。

Q24 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (1) 医療面接

重要視している やや重要視して 重要視していない

a. 病歴(主訴、現病歴、既往歴及び家族歴)聴取を的確に行う。

a-1. 患者の訴えを傾聴する。

a-2. 患者の訴えを順序立てて誘導する。

b. 病歴を正確に記録する。

c. 患者の心理・社会的背景に配慮する。

d. 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。

e. 患者の自己決定を尊重する。

f. 患者のプライバシーを守る。

g. 患者の心身におけるQOL(Quality of Life)に配慮する。

h. 患者教育と治療への動機付けを行う。

Q25 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (2) 総合診療計画

重要視している やや重要視して 重要視していない

a. 適切で十分な医療情報を収集する。

a-1. 必要な医療情報を列挙する。

a-2. 医療情報を十分に収集する。

b. 基本的な診察・検査を実施する。

c. 基本的な診察・検査の所見を判断する。

d. 得られた情報から診

断する。

e. 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。

e-1. 適切な治療法を選択する。

e-2. 妥当な治療法をすべて患者に提示する。

f. 十分な説明による患者の自己決定を確認する。

g. 一口腔単位の治療計画を作成する。

Q26 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (3) 予防・治療基本技術

重要視している やや重要視して 重要視していない

a. 基本的な予防法の手法を実施する。

b. 基本的な治療法の手法を実施する。

c. 医療記録を適切に作成する。

d. 医療記録を適切に管理する。

d-1. 個人情報への取扱いに配慮する。

d-2. 医療記録を管理する。

Q27 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (4) 応急処置

重要視している やや重要視して 重要視していない

a. 疼痛に対する基本的な治療を実施する。

b. 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実施する。

c. 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適切な処置に対する適切な処置を実施する。

Q28 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (5) 高頻度治療

重要視している やや重要視して 重要視していない

a. 齲蝕の基本的な治療を実施する。

b. 歯髄疾患の基本的な治療を実施する。

c. 歯周疾患の基本的な治療を実施する。

d. 抜歯の基本的な処置を実施する。

e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実施する。

Q29 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (6) 医療管理・地域医療

重要視している やや重要視して 重要視していない

a. 保険診療を実施す

る。	<input type="radio"/>								
a-1. 保険診療について説明する。	<input type="radio"/>								
a-2. 適切な保険診療を實踐する。	<input type="radio"/>								
b. チーム医療を實踐する。	<input type="radio"/>								
b-1. 他の歯科医師・歯科衛生士等と常に情報交換する。	<input type="radio"/>								
b-2. 歯科衛生士等に適切に指示する。	<input type="radio"/>								
c. 地域医療に参画する。	<input type="radio"/>								
Q30 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (1) 救急処置									
a. バイタルサインを観察し、異常を評価する。	<input type="radio"/>								
b. 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。	<input type="radio"/>								
c. 全身状態の歯科診療上のリスクを説明する。	<input type="radio"/>								
d. 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。	<input type="radio"/>								
e. 一次救命処置を實踐する。	<input type="radio"/>								
f. 二次救命処置の対処法を説明する。	<input type="radio"/>								
Q31 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (2) 医療安全・感染予防									
a. 医療安全対策を説明する。	<input type="radio"/>								
b. アグシメント及びインシデントを説明する。	<input type="radio"/>								
b-1. 医療事故について説明する。	<input type="radio"/>								
b-2. ヒヤリ・ハットについて説明する。	<input type="radio"/>								
c. 医療過誤について説明する。	<input type="radio"/>								
d. 院内感染対策 (Standard Precautions を含む) を説明する。	<input type="radio"/>								
e. 院内感染対策を實踐する。	<input type="radio"/>								
e-1. 常に感染防止に配慮する。	<input type="radio"/>								
e-2. 感染防止対策を實踐する。	<input type="radio"/>								
Q32 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (3) 経過評価管理									
a. リコーレンシブの重要性を説明する。	<input type="radio"/>								

b. 治療の結果を評価する。	<input type="radio"/>								
Q33 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (4) 予防・治療技術									
重要視している	<input type="radio"/>	やや重要視している	<input type="radio"/>	やや重要視していない	<input type="radio"/>	重要視していない	<input type="radio"/>	重要視していない	<input type="radio"/>
a. 専門的な分野の情報を収集する。	<input type="radio"/>								
a-1. 積極的に情報を求める。	<input type="radio"/>								
a-2. 求める情報を検索する。	<input type="radio"/>								
b. 専門的な分野を体験する。	<input type="radio"/>								
c. POS (Problem Oriented System) を説明する。	<input type="radio"/>								
d. EBM (Evidence Based Medicine) を説明する。	<input type="radio"/>								
Q34 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (5) 医療管理									
重要視している	<input type="radio"/>	やや重要視している	<input type="radio"/>	やや重要視していない	<input type="radio"/>	重要視していない	<input type="radio"/>	重要視していない	<input type="radio"/>
a. 歯科医療機関の経営管理を説明する。	<input type="radio"/>								
b. 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う。	<input type="radio"/>								
c. 適切な放射線管理を實踐する。	<input type="radio"/>								
c-1. 患者、医療従事者等の被曝に配慮する。	<input type="radio"/>								
c-2. 放射線防護を實踐する。	<input type="radio"/>								
d. 廃棄物を適切に処理する。	<input type="radio"/>								
d-1. 廃棄物を分別する。	<input type="radio"/>								
d-2. 感染性廃棄物を完全に取り扱う。	<input type="radio"/>								
Q35 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (6) 地域医療									
重要視している	<input type="radio"/>	やや重要視している	<input type="radio"/>	やや重要視していない	<input type="radio"/>	重要視していない	<input type="radio"/>	重要視していない	<input type="radio"/>
a. 地域歯科保健活動を説明する。	<input type="radio"/>								
b. 歯科訪問診療を説明する。	<input type="radio"/>								
c. 歯科訪問診療を体験する。	<input type="radio"/>								
d. 医療連携を説明する。	<input type="radio"/>								

ご協力ありがとうございました。送信ボタンをクリックしてください。

送信